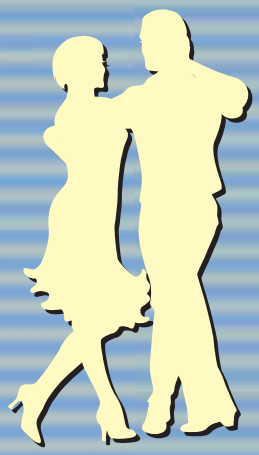
スポーツくじ
toto BIG

Dance Dance Dance

ダンス ダンス ダンス



WDSF公認
第20回東京オープン・ダンススポーツ選手権

WDSF世界ユースブレイキン選手権記者会見

山形県ダンススポーツ連盟創立30周年記念式典

公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2018 No.87
春

QUALIFICATION EVENT
#BUENOSAIRES2018

BUENOS AIRES 2018 | YOUTH OLYMPIC GAMES

ブエノスアイレス
ユースオリンピック2018
世界最終予選

WDSF 世界ユース ブレイキン 選手権

WDSF World Youth Breaking Championship

http://breaking.jdsf.or.jp

ブレイキン＝ブレイクダンスのユース世界一決定戦！
世界33カ国の代表89名が”メッカ”川崎に一挙集結！

2018.05.20 SUN

カルッツかわさき
（川崎市スポーツ・文化総合センター）

開場 10:00 / Phase1 11:00～ / Phase2 13:00～ / Phase3 18:00～

観戦チケット　¥2,000 / 中学生以下無料
イープラスにて好評発売中！

主　催：JDSF（公益社団法人日本ダンススポーツ連盟）
後　援：外務省/（公財）日本スポーツ協会/（公財）日本オリンピック委員会
川崎商工会議所/（一社）川崎市観光協会/（一社）川崎市商店街連合会/（公財）川崎市スポーツ協会/（公財）川崎市国際交流協会/（公財）川崎市文化財団
特別協力：川崎市

問い合わせ先 大会事務局 03-6457-1858

world DanceSport federation　BREAKING　JDSF Japan DanceSport Federation　川崎市

ご挨拶

公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟（JDSF）
ブレイクダンス部長　**石川　勝之**

2016年末、IOCがついにブレイクダンスを「スポーツ」として新種目に追加し、2018年にアルゼンチンで行なわれる「YOUTH OLYMPIC GAMES」に正式参加が決定しました。これを機にJDSFのブレイクダンス部の部長に就任することになった石川勝之氏は、川崎市の「溝の口」を拠点に、日本のみならず海外の大会でも多数結果を残し、日本のシーンはもちろんのこと世界のシーンでも多大な影響を与え続けています。

大学時代には体育の教員免許を取得。ダンスのスキルだけではなく、ダンスを通して人間力を高めることの重要性も同時に伝え、世界中で行なわれる彼のワークショップではリピーターも多く、日本、世界中のBBOYたちに多大な影響を与え続けています。

ブレイキンがユースオリンピックの正式種目に決定した時、ツイッターで知りました。本当にびっくりしました。今までカルチャーとしてやっていただけに、スポーツになったことと、「誰が決めたんだ？！」という思いが浮かびました。その後すぐにWDSF、そしてJDSFから直接メールがあり、話をすることになりました。初めはヒップホップを知らない、BBOYが関わっていない団体がブレイキンを取り仕切るのは無理なのではないかと思ってました。というのも、このカルチャーを知らずにシーンを作っていくことは本当に難しいことだと感じているからです。

JDSFへ初めて顔合わせに行った時は、（Hip-Hopを知らない皆さんに）僕がHip-Hopをしっかり伝えなくてはいけないと思いました。皆さんが、その気持ちに大変理解を示してくれて驚くと共に感謝しました。JDSFも10ダンスやソーシャルダンスというカルチャーをスポーツとして普及させようと頑張ってきた団体で、ある意味同じ経験をしていたんだなと痛感しました。

そして、日本支部のブレイキンの専門家として手伝って欲しいとなったのですが、僕が勝手にやりますというのにはとても違和感があり、近い先輩方に相談しに行きました。そしたら意外と（ブレイキンがオリンピック種目になることに対して）皆前向きで、多くの先輩方や仲間たちから『KATSUお前がやれよ』『お前しかいないよ』と言ってくれました。

何かしらのミスや不具合は起きるかもしれないという不安はありましたが、皆の支えがあったので、やれるところまでやってみようと思いました。

日本のユースのレベルが高いというのは世界的に言われており、アジア大陸予選では男女ともに優勝が日本人で、他のメンバーもほとんどがTOP６以内という結果になりました。川崎市のサポートもあり、５月20日に「川崎カルッツ」にて世界最終予選の開催が決まりました。ここで今年10月に行なわれるユースオリンピック in アルゼンチンでの大会出場者が決まります。

世界最終選考に残っている男子３名、女子２名。ユースオリンピックの出場に対して猛練習をしております。オリンピックにダンススポーツが選ばれるためにも金メダルを目指します。皆様の応援、どうぞよろしくお願いします。

プロフィール

2008年にアメリカで最も古い権威ある大会、「FREESTYLE SESSION USA」において世界各国から集結された最強メンバーに選ばれ、世界一を勝ち取る。日本で毎年行なわれている「FREESTYLE SESSION JAPAN」では、日本人としては過去最多の３度の優勝を成し遂げ、2009年韓国で開催されている*BBOY界のワールドカップ「R-16」世界大会においても、日本人チームとして初のSHOW CASEとBATTLEのダブル世界一達成。同年、Red Bullが主催する世界最高峰と言われているSOLO BATTLE「Red Bull BC One」世界大会（ニューヨーク）においてはGUEST JUDGEとして招かれ、2010年、2015年には世界で最も伝統ある大会「BATTLE OF THE YEAR」世界大会（フランス）において、現役BBOYとして日本人初のGUEST JUDGEとして招かれる。2010年、「BBOYとして永住権を取得する」という目標を掲げ、いきなり渡豪。活動拠点を日本からオーストラリアへ移し、2013年にオーストラリア永住権取得。2014年、長年行なっているストリート文化を通し、この文化を発展させるべく、ストリートエンターテインメント事業「株式会社IAM（アイアム）」を仲間と共に川崎市に設立。若者の育成を中心にイベントオーガナイズ、スタジオ経営（鷺沼）、マネージメント、アパレルを手がける。その傍ら現在も現役BBOYとして大会や審査員そしてワークショップなどで世界中を飛び周り、日本各地はもちろんのこと、訪れた国は数多く、ストリートダンス文化を通して日本と世界の架け橋となるべくコミュニケーションを取り続けている。

＊ BBOYとはブレイクダンスを踊る人

WDSF公認　世界ランキングポイント取得対象競技会

第20回東京オープン・ダンススポーツ選手権

併催競技：WDSF PDスーパーグランプリ・スタンダード
U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ スタンダード＆ラテン

2018年2月25日（日）／東京体育館

日吉俊彦
大会実行委員長

山口剛チェア
パーソン（競技長）

東京オープン・ダンススポーツ選手権は、1999年第１回ロヂャース杯東京オープンとして始まりました。我が国最大のダンススポーツ国際競技会です。世界のトップアスリートが集まり、熱い戦いを繰り広げる世界ダンススポーツ連盟（WDSF）公認の世界ランキングポイント取得の大会であり、記念すべき第20回大会は、世界25か国190組がエントリー、約7,500人の観客で東京体育館も一杯となり熱気溢れる大会となりました。

朝７時55分、日吉俊彦実行委員長の開会宣言、続いて山口剛チェアパーソン（競技長）の諸注意があり、８時から競技はスタートしました。

WDSF旗、選手・審判員・大会役員を前に挨拶する齊藤斗志二JDSF会長

WDSFワールドオープン・スタンダード

全55組が出場、うち海外選手は23組が出場、JDSF創立40周年で初来日を果たし、すっかり日本でもお馴染みとなり、直近のグランドスラム準優勝を飾ったソデイカ組、グランドスラム第３位、前回東京オープン準優勝のガルッポ組、グランドスラム第７位のアベル組と世界トップの実力選手が揃い熾烈な争いとなりましたが、ソデイカ組が５種目とも１位となり優勝に輝きました。

準決勝12組に残念ながらチームジャパン日本選手のコールはありませんでしたが、最後の決勝は、世界のトップレベルの選手の、華麗な動きとスピード、緩急を極める精密で正確なフットワークとコントロールなど、ダンススポーツの素晴らしさを観客の皆様は改めて認識されたことでしょう。

フランチェスコ・ガルッポ＆
デボラ・パチーニ 組（イタリア）
Francesco Galuppo & Debora Pacini

エヴェルダス・ソデイカ＆
イエヴァ・ズコウスケイテ 組（リトアニア）
Evaldas Sodeika & Ieva Zukauskaite

マディス・アベル＆
アレクサンドラ・ガルキナ 組（エストニア）
Madis Abel & Aleksandra Galkina

マテウス・ブルゾゾウスキー＆
ユスティナ・モッゾネク 組（ポーランド）
Mateusz Brzozowski & Justyna Mozdzonek

エドガース・リニス＆
エリザ・アンカーネ 組（ラトビア）
Edgars Linis & Eliza Ancane

マルコ・シロッキ＆
ドーラ・キリン 組（ルーマニア）
Marco Sirocchi & Dora Kilin

活躍した日本選手

菅原一樹 & ラウラ・コラビッツァ 組
（東京都）『14位』

小嶋みなと & 盛田めぐみ 組
（神奈川県）『16位』

八谷和樹 & 皆川　円 組
（千葉県）『18位』

大西大晶 & 大西咲菜 組
（東洋大学／富山県）『20位』

WDSFインターナショナルオープン・ラテン

全33組が出場、海外選手は20組。日本の若きエース藤井組がスタンダードとラテン、両方にエントリーしましたが、大会３日前にスタンダードの欠場を決意し、ラテン一本に絞って今日の決戦に挑みました。準決勝12組でコールされた日本選手はたった一組だけ、その厳しい戦いの中で、決勝に藤井・吉川組の名前がコールされ、館内はこの日最大の歓声に包まれました。優勝のパスカル組はサンバ、チャチャチャ、パソで１位、ガウディーノ組はルンバ、ジャイブで１位となる大接戦でした。

ギエム・パスカル & ロサ・カルネ 組（スペイン）
Guillem Pasqual & Rosa Carne

コンスタンティン・ゴロディロフ &
ドミニカ・ベルグマノーワ 組（エストニア）
Konstantin Gorodilov & Dominika Bergmanova

藤井創太 & 吉川あみ 組
（千葉県／東洋大学）

ウンベルト・ガウディーノ&
ルイーゼ・ハイゼ 組（デンマーク）
Umberto Gaudino & Louise Heise

ヴィト・コッポラ &
ウーナ・オイナス 組（イタリア）
Vito Coppola & Oona Oinas

ヴィクター・ビチコフ &
アリーナ・アタマンチェク 組
（ロシア）
Victor Bychkov &
Alina Atamanchuk

WDSF PDスーパーグランプリ・スタンダード

全48組、海外選手26選手が出場しました。2015年から出場する全てのPD競技会で優勝、世界チャンピオンのフェルッジア組が５種目すべてで１位となり、昨年から始まったこの大会２連覇を達成。前回大会２位、世界選手権２位のヴェゼリス組が準優勝となりました。準決勝に日本選手でただ一組オレクシー・グザー＆太田吏圭子組が入り、第11位と大健闘しました。

ベネデット・フェルッジア＆
クラウディア・ケーラー 組(ドイツ)
Benedetto Ferruggia & Claudia Koehler

ドナータス・ヴェゼリス＆
リナ・チャットケヴィシウテ 組(リトアニア)
Donatas Vezelis & Lina Chatkeviciute

ビヨルン・ビッチュ＆
アシュリ・ウィリアムソン 組 (デンマーク)
Bjorn Bitsch & Ashli Williamson

アンドレイ・モティル＆
エカテリーナ・キム 組 (ロシア)
Andrey Motyl & Ekaterina Kim

アンジェイ・サデッキ＆
カリナ・ナウロ 組 (ポーランド)
Andrzej Sadecki & Karina Nawrot

ヴィクター・プレスネツォフ＆
ヴェラ・ナム 組 (ロシア)
Victor Presnetsov & Vera Nam

準決勝入りした
オレクシー・グザー＆
太田吏圭子 組
(東京都)『11位』

山本武志＆
山本友美 組
(シノダ・スポーツダンスクラブ)
『14位』

久保田弓椰＆
徳野夏海 組
(TEAM YUMIYA北海道)
『16位』

第12回 U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ スタンダード

石垣和宏＆三喜穂菜美 組
(ブルボンDST)

優　勝　石垣和宏＆三喜　穂菜美 組(ブルボンDST)
準優勝　守屋　駿＆土屋舞姫 組(東海大学)
第３位　太田歩生＆太田なごみ 組(北海道)
第４位　浜崎裕章＆吉田早希 組(東京理科大学)
第５位　安部邦斗＆安部美咲 組(千葉県)
第６位　中野颯斗＆髙橋美樹 組(東京大学)

第12回 U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ ラテン

マテオ・カポダクア＆
ミリアナ・アントネッリ 組
(イタリア)

優　勝　マテオ・カポダクア＆ミリアナ・アントネッリ 組(イタリア)
準優勝　石垣和宏・三喜穂菜美 組(ブルボンDST)
第３位　和田英樹・大西妙佳 組(慶應義塾大学)
第４位　太田歩生・太田なごみ 組(北海道)
第５位　泰永圭吾・牧野果礼 組(群馬県)
第６位　安部邦斗・安部美咲 組(千葉県)

グランドセレモニー

WDSF旗を先頭に選手・役員の入場行進そして国歌斉唱に続き、主催者を代表して齊藤斗志二 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）会長は「第20回大会を迎えました。第１回ロヂャース杯から長い道程であり、感慨深いものがあります。只今開催中の韓国ピョンチャンオリンピックでも、新種目のスノーボードのビッグエア、スピードスケートのマススタートなど新しい種目も採用されています。ブレイキンも新しい種目としてユースオリンピックで披露されます。国体の場、2024年パリのオリンピックの場にも新しいスポーツとしてダンススポーツが新しい競技、新種目に採用されるように現在展開中です」と挨拶されました。

ジュニアアスリート優秀選手の表彰

ジュニアアスリート優秀選手表彰式

最優秀選手賞は昨年に続き五月女光政・叡佳組（ブルボンDST）が受賞。そして、未来ダンサープロジェクトの紹介があり、沢山の子供達が登場し、元気に楽しく踊りました。出場者全員にブルボンのお菓子が贈られました。

ブルボンのお菓子

★JDSFニュージェネレーションダンス本部が送る華やかなオープニングショー、そし５月20日、世界ユース選手権が決定した10月にユースオリンピックにおいて正式種目として開催されるブレイクダンス（ブレイキン）が披露されました。

ブレイクダンス

オープニングショー

ご来賓の皆さん

太田文子さまご逝去
心よりお悔やみ申し上げます。

北辰商事株式会社・株式会社ロヂャース太田実社長夫人の文子さま（同専務取締役）が平成30年２月21日にお亡くなりになりました。太田社長ご夫妻は、心からダンスを愛され、自らダンスを踊り、ダンスを楽しまれ、東京オープン・ダンススポーツ選手権をはじめ多大なるご支援、言い尽くせないほどのご指導を賜っております。

桜が舞い散る中、4月3日、ニューオータニにおいて「お別れ会」が開催され、企業関係者やダンス関係者など約２千人が参列し、故人を偲び弔花を捧げ、お別れをしました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

優勝・入賞インタビュー

WDSF ワールドオープン・スタンダード

エヴェルダス・ソデイカ＆イエヴァ・ズコウスケイテ組（リトアニア）

観客の皆様には声援していただき感謝しています。オナーダンスを踊れてとてもハッピーでした。ハイレベルな競技会が東京であることは知っていましたが、今回ようやくそのチャンスに出会えました。私たちは最大限に努力をしますが、ランキングにはこだわりません。ダンスはフィジカル・テクニック・フィーリングの組み合わせですが、私たちはナチュラルで感情豊かな表現を観客にお見せしたいと思っています。私たちが感じているダンスの喜びや感情が、幸福感が観客に伝わりシェアすることが大切だと思います。今日は日本の皆様に温かく応援していただき、自国の競技会のようでした。また日本に来られるようベストを尽くします。

WDSF インターナショナルオープン・ラテン

ギエム・パスカル＆ロサ・カルネ組（スペイン）

日本の競技会は2回目で、2015年の東京オープンでは2位でした。今回は優勝できてとても嬉しいです。カップル歴は8年半ですが、ダンスを始めたのがリーダーは8歳、パートナーは6歳からです。私たちが得意としているのはオナーダンスでお見せしたパソドブレです。パソは闘牛士のダンスですから、スペイン出身の私たちにとって感情表現がしやすい種目です。日本の競技選手の皆さんに伝えたいことは、一番大事なのは目標に向かって夢を持ってダンスを続けることです。日本のお客様は大声で叫び続けるスペインとは違いお行儀が良く、でも近くに寄っていくと拍手で温かく応援していただいて大変嬉しかったです。ご声援ありがとうございました。また必ず日本に来ます。

WDSF PD スーパーグランプリ・スタンダード

ベネデット・フェルッジア＆クラウディア・ケーラー組（ドイツ）

優勝は何度しても嬉しいです。私たちは昨年よりもフィジカルもメンタルも向上していて、皆様に質の良い踊りを見ていただけたと思います。昨年9月に結婚して2人は今まで以上に尊敬し合っています。（パートナーは）家事の好きな男性と結婚できて本当にラッキーです。遠くない将来に競技ダンスを引退したら子供が欲しいです。それまではチャンピオンを維持するために努力し、指導者としても日本や各国にダンスを広めサポートしていきたいと思っています。また、ベネデットとクラウディアのユニットとして様々なことにチャレンジしていくつもりです。競技選手の皆さん、フィジカル、メンタルとテクニカルな要素を取り入れて練習することが大事です。そして忘れてはいけないのは良いコーチの指導を受けることです。常に偉大なるチャンピオンはたった1人のコーチに師事します。私たちは今もメインコーチのダビデ・カチアリ先生のレッスンを受けています。

U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ スタンダード

石垣和宏・三喜穂菜美組（ブルボンDST）

ラテンが2位だったので優勝できてとても嬉しいです。カップルを組んでまだ1年半です。今日の良かった点は、僕（リーダー）は受験があったので、一度自分の踊りを見直す機会があり、それが良かったのだと思います。私（パートナー）は本番で固まってしまうことがあったので、今日は気を楽にして力を入れ過ぎずに踊ることに心掛けました。テクニックだけでは勝てないということを最近感じていて、練習でも周りにお客さんがいるつもりで、目線や表情を日ごろから注意するようにしています。平昌オリンピックの羽生選手がリンクや怪我をした足首に感謝をしているのを見て、私も感謝の気持ちを忘れないようにと思って踊りました。僕（リーダー）は羽生選手が日本人でも世界で勝てるということ証明してくれたので、僕も諦めてはいけないと思いました。8月のジャーマンオープンに出場し、自分の踊りが世界で通用するかどうか確かめてきたいと思います。

U-23オールジャパン・ダンススポーツカップ ラテン

マテオ・カポダクア＆ミリアナ・アントネッリ（イタリア）

素晴らしい競技会で優勝できてとてもハッピーです。日本の競技会は初めて参加しましたが、カップルを組んで10か月で初めて優勝できて本当に嬉しいです。2人は19歳で学生です。勉強とダンスの両立は大変きびしく、色々な問題を抱えていますが、その限られた枠の中で精いっぱい頑張ることが大切だと思っています。今後の明確な目標はまだ定めていませんが、WDSFの大会に参加しながらダンスを上達させていきたいと思っています。日本に着いてから東京を観光しましたが、素晴らしい都市だと思いました。また今日の会場はとても気に入りました。決勝に残った時は本当に怖くなってきて、優勝コールがあった時は驚きました。観客も手拍子で応援してくれて嬉しかったです。是非また日本での競技会に参加したいと思います。

―WDSFインターナショナルオープン・ラテン 初のファイナル―

第6位　藤井創太・吉川あみ組（千葉県／東洋大学）

決勝に残れてとても嬉しいです。この大会の少し前に海外のコーチャーのレッスンを受け基礎から踊り方を見直しました。また1月にマウリッツオのキャンプに行き、レクチャーを受け、トップの選手たちとの練習で大いに刺激を受けてきました。それらのことが今日の結果に繋がったのだと思います。これを励みにこれからも頑張りたいと思います。

第26回全国指導員・審判員・PD会員ダンススポーツコングレス

東京オープンの前日、2月24日（土）、東京体育館サブアリーナで開催されました。PD（プレミアディビジョン）会員の参加が増え、会場は指導員養成講座受講者も合わせて460名の受講者で席は満杯となりました。岸尾政弘総務部長の司会で始まり、冒頭、中道俊之普及本部長から「全国からご参加いただき感謝します。今回も多くのPD会員の参加がありました。特に今回は、海外トップのコーチャーが世界トップ選手をモデルにダンススポーツの解説があります。ご期待ください」と挨拶がありました。通訳は前回東京オープンコングレスで好評を博した岸本真（JDSF−PD審判員）が務めました。

ラテン実技講座は世界チャンピオンも育成したスペインのカリナ・ルビオ氏が講師を務め、モデルは2年前の東京オープンラテン準優勝のギエム・パスカル＆ロサ・カルネ組（スペイン）が努めました。バランスの取り方から始まりウエイト、ホールドなど、後半もリズムやタイミングなどについて分り易い解説がありました。

スタンダード実技講座はレッスンで世界中を飛び回っているユベール・ド・メシャルク（ベルギー）氏が講師、世界チャンピオンのベネデット・フェルッジア＆クラウディア・ケーラー組（ドイツ）がモデルを務めました。特にヴェニーズワルツ（VW）は過去のVWとはすっかり変わったが6つの基本ステップは変わらない。女性の足はヒールを着いて回転することなど興味深い解説がありました。

（モデルの両カップルは、翌日の東京オープンで優勝を飾りました）

JDSF-PD奈良県創立２周年 記念ダンスパーティーを迎えて

JDSF-PD奈良県会長　阪田　麗二

JDSF-PD奈良県（以下PD奈良県）の正式名称は一般社団法人奈良県ボールルームダンス連盟と称し、平成28年４月１日に設立総会・設立登記を行い、JBDFがJDSFと協調路線を取ろうとしていた時期にいち早く一般社団法人西部日本ボールルームダンス連盟から独立した組織です。

この関係でPD各ブロック内には支部組織しかないなか全国で数少ない県連盟体制をとっています。

平成28年６月、JDSFにPD部門が設立されたのを受けて臨時総会を開催、その理念に賛同して加盟を決議、加盟申請を行いJDSF-PDの加盟団体として認められ、PD西部ブロックで活動を続けています。

また、奈良県でスポーツを行なう団体として長年の宿願であった公益財団法人奈良県体育協会へも同年３月末に加盟を果たすことが出来ました。

2018年２月12日、PD奈良県の創立２周年に当たり、奈良県北葛城郡王寺町で創立２周年記念ダンスパーティーを開催いたしました。PDの主催するダンスパーティーとして、お客様が「踊って楽しむ」「演技発表をして楽しむ」「プレミアな踊りを見て楽しむ」という三つの楽しみを目標とし、スペシャルゲストには平成29年11月に開催した第２回PD西部ブロックランキング競技奈良大会のファイナリスト・スタンダード喜多田芳紀・細田千代組、ラテン上原伸之・家入由佳組にスペシャルデモンストレーションを踊っていただき、また、奈良県やPD西部ブロックの現役選手のデモンストレーション、現役PD選手によるアテンダント、スペシャルゲストとソロで踊る事や協賛品が当たる抽選会、お客様のデモンストレーションやミックスデモンストレーションと、盛りだくさんのメニューで参加いただいたダンス愛好家の皆様方には十分に楽しんでいただけたことと思います。

このように盛大にPD奈良県が創立２周年を迎えることが出来ましたのは、JDSF本部、PD本部の励ましやPD西部ブロックの応援と共に、奈良県ダンススポーツ連盟（大江偉夫会長）の皆さんの熱い友情によるものと心より感謝申しあげます。

この間、平成28年11月20日（日）、PD奈良県として初めての競技会を開催し、PDオープン戦を含め多数の参加者で熱戦が繰り広げられ、西部ブロックからPDの林栄治郎委員長、国分完祐名誉相談役、GDの天道貞一委員長にご出席いただいたのをはじめ300名を超える方々に観戦していただきました。合わせて奈良県ダンススポーツ連盟（以下GD奈良）の応援をいただき、無事に成功することが出来ました。

そして平成29年２月12日連盟設立記念ダンスパーティーを開催しました。

それまでの活動を通じてPD（プレミアーディビジョン）奈良県とGD（ゼネラルーディビジョン）奈良の間で互いに連携を深める機運が高まり平成29年４月に相互に役員を出し合い、HPにも連携ページを作成し、組織として互いに連携をより深めるように努めています。

平成29年５月３日（水・祝）には統一名称の「第１回西部ブロックランキング競技奈良大会」をブロックランキング対象競技会として開催し多数の参加を得、PD奈良県、GD奈良両組織の役員と関係者総出で開催することが出来ました。

さらに平成29年11月19日（日）には「第２回PD西部ブロックランキング競技奈良大会」を開催、奈良県内での更なる連携の強化をはかりながら開催をしました。また、この大会を公益財団法人奈良県体育協会主催の第26回県スポーツレクレーション祭参加戦として“二人で130歳以上”と“タンゴ・チャチャチャの総合戦”を併催し、公益財団法人奈良県体育協会から、多大なご支援をいただきましたことをご報告いたします。

今後は、奈良県内の各種ダンス関係者の皆様方と今以上に連携を図り３周年４周年５周年と嬉しいご報告が出来ますよう、まい進してまいります。

阪田会長の挨拶、副会長とデモを踊ったPD選手達

オープニングを踊ったジュニア選手

アテンダントのPD選手とお客様

スペシャルゲストの上原伸之／家入由佳組

WDSF世界ユースブレイキン選手権決定に伴い川崎市役所にて記者会見

挨拶する齊藤斗志二JDSF会長と福田川崎市長（左隣）、中森JOC強化部長（左端）ほか役員

2018年10月、ブエノスアイレスで開催される第３回ユースオリンピックではダンススポーツが正式競技となりました。実施される競技種目はブレイキン（ブレイクダンス）です。

その世界最終予選となる「WDSF世界ユースブレイキン選手権（WDSF World Youth Breaking Championships）以下：WDSF世界ユース」が、2018年５月20日（土）、神奈川県川崎市の“カルッツかわさき”にて開催が決定し、１月18日（木）11時より川崎市役所において記者会見が開催されました。会見場には、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟（JDSF）齊藤斗志二会長や、特別協力をいただく川崎市の福田紀彦市長、中森康弘JOC（日本オリンピック委員会）強化部強化第２部長、山田淳専務理事、石川勝之ブレイクダンス部長、野中泰輔大会実行委員長をはじめとした関係者、さらにWDSF世界ユース日本代表の男子３名、女子２名のBboy & Bgirlが勢揃いし、会見は行なわれました。

冒頭、主催者を代表し齊藤JDSF会長が「WDSF世界ユースの開催が決まり、JOC竹田恆和会長が組織委員会の最高顧問にご就任されたことをご報告する。社交ダンスから発展したペアのダンスから、音楽の変化、文化的側面、時代背景の変化等からさらにスポーツ化された新しい視点からのスポーツとして、若者の中から自然発生したブレイキンが決まり、JDSFは責任を持って世界選手権、オリンピックに若者をしっかり送り込みたい。そして2024年パリ、2028年ロサンゼルスでのオリンピック開催が決定し、特にヨーロッパではダンススポーツ文化が華やかであり、開催地枠での正式種目化が期待される」と、挨拶しました。福田川崎市長は「川崎市はブレイキンの聖地、東のメッカとも呼ばれる。川崎ゆかりの優秀な選手も非常に多い。ブレイクダンス部長の石川勝之さん（かわさき産業親善大使）、アジア・オセアニア大陸予選女子優勝のRamさんは市内の県立百合ヶ丘高校に通う生徒です。今回JDSFからユースブレイキンの世界選手権の川崎市開催の打診があり、川崎の魅力やプレゼンスを世界に発信する絶好の機会と捉え支援することになった」と挨拶を頂きました。野中泰輔（BBOY TAISUKE）大会実行委員長からは、ブレイキン採用の理由について、「IOCユースオリンピック委員会は、ブレイキンがオリンピズム（オリンピック運動の原則）のDNAに合致すると認めた」等、正式種目採用の経過について、説明があり、さらにユースオリンピック出場までの３つのステップについて説明がありました。

石川勝之ブレイクダンス部長からは、WDSF世界ユース選手権の実施方法と採点方法について詳細な説明がありました。（10頁参照）

選手を代表して、半井重幸（Shigekix）と河合来夢（Ram）から元気よく金メダル獲得宣言があり、再度、福田市長より、「まずは世界選手権でブエノスアイレスの切符を手に入れて、ユースオリンピックでは最高のパフォーマンスで金メダルを！」と激励。最後にWDSF世界ユース出場の日本代表選手の個性豊かなパフォーマンスが披露されました。

日本代表選手

半井重幸（Shigekix）

大阪府大阪狭山市出身／
2002年3月11日生まれ／大陸予選 優勝

「7歳から姉の影響で始めました。自分の中ではWDSF世界ユースだからといってスタイルを変えるのではなく今までどおりのスタイルで、スキル、技術力、体力を今のままで底上げしていきたい」

河合来夢（Ram）

神奈川県横浜市出身／
2001年4月11日生まれ／大陸予選 優勝

「世界大会３連覇の川崎市のチーム「フローリアーズ」に所属して活動。昨年から海外遠征も、３月にはベラルーシの大会に出場します。そして５月のWDSF世界ユースで頑張ります」

金森翔也（Shoya）

石川県白山市出身／
2002年3月15日生まれ／大陸予選 3位

「ダンス歴10年、やればやるほど楽しいし学ぶことが多い。体の動く限りブレイキンはやりたい」

川崎　麗（Uruha）

和歌山県和歌山市出身／
2002年10月25日生まれ／大陸予選 3位

「練習は大阪で、仲の良いチームと練習ですが受験生なので、毎日は大変ですが、優勝目指して頑張ります。50歳までブレイキンやります。」

川本　陸（Riku）

岡山県岡山市出身／
2002年10月27日生まれ／大陸予選 4位

「第４位頑張りました！ダンス歴８年いつもは５人の仲間と練習しています。音楽が好きで、動きと音楽がきちっと決まった瞬間が好きです」

ブレイキン特集

ブレイキンとは

（石川勝之、編集ブレイキン部副部長：福島梨絵）

ブレイキンとはブレイクダンスとも言われている。音楽に乗せて身体のあらゆるところを使って、回ったり、跳ねたりとアクロバティックな動きを取り入れたダンスです。

「BREAK DANCE」というものは、「4 ELEMENTs」からなる「Hip-Hop」と呼ばれる文化の一つであります。そのHip-Hopのダンスを踊っている人たちのことを「BBOY、BGIRL」と呼び、元々は「BBOYING」や「BREAKING」、略して「ブレイキン」と呼ばれていましたが、流行とともに一般に分かりやすいように説明するため、「ブレイクダンス」と呼ばれるようになっていきました。元々の名前は「BREAKING」です。

「4 ELEMENTs」とは、BBOY,MC,DJ,GRAFFITY,のことを言います。

ブレイキンの特徴

主な特徴としては「バトル」がメインとなり、踊りを見せ合い、戦う（バトル）ことが主な表現となります。

具体的には1対1から2対2などの少人数でソロ（1人で踊ること）を見せ合うカテゴリーや、チームバトルなど大人数でルーティーン（合わせ技、チームとしての空気感やチーム力）をするなど様々なカテゴリがーあります。

ソロダンサーとしての精神力や経験値、大人数で踊るときのコミュニケーション力や創造力など様々なことを要求されます。

この「バトル」文化にはBREAKINGの歴史が今もなお影響し次世代へと繋がっています。

ここでBREAKINGの歴史について辿っていきましょう。

ブレイキンの歴史

起源は1970年代初頭のニューヨーク・サウスブロンクス地区の貧困地帯です。

当時、ここは世界でも稀にみる貧困地区で、ストリートギャングたちがあらわれてきました。縄張り争いが始まり、たくさんの命が奪われていきました。

そんな彼らも、家に帰ってはBREKINGやMC、DJなど音楽に没頭していたと言われています。当時、人が殺し合いで亡くなっていく中、そのパワーをどこに向けていいのかわからなかったギャングたちに、「殺し合いをせずに音楽で勝負する」と当時のDJだったギャングのボスが提唱したことによって、向き合って踊る「BATTLE」というフォーマットが生まれました。

その頃、BLOCK PARTY（今で言うクラブパーティー）と言われる音楽を通して「楽しむ場」ができ、彼らはそこでもBATTLEを繰り広げ、Hip-Hopカルチャーが瞬く間に世界中に広まっていきました。ちなみに「Hip-Hop」と言う言葉が世に出たのは1982年だと言われています。

その後、1980年代前半、ニューヨークの大規模なバトルがメディアの関心を受け、これがBREAKINGの急速な成長へと繋がり、テレビ番組や公のイベントなどにも進出していきました。

ブレイキンの要素

ブレイキンには様々な動きがありますが大きく分けるとTOPROCK、FOOTWORK、POWER MOVE、FREEZEといった構成になります。

TOPROCK

床で動いたり、回ったりするのがブレイキンの特徴ですが、その流れに入るまでにする立ち踊り。

FOOTWORK

屈んだ状態で地面に手を突き、素早く動く足さばきやステップなど。

POWER MOVE

背中や肩で回るウィンドミル、背中で回るバックスピン、頭で回るヘッドスピンなどがあり、体の様々な部分で回転する動き。

FREEZE

TOPROCK、FOOTWORK、POWER MOVEなどの一連の流れから音に合わせて体、動きを固めて止めること。低い位置や逆立ちなどの高い位置のフリーズなど種類もたくさんあります。

この4つの構成の中にもたくさんの動きがあり、これらを基盤とし、自分独自の良さを生かした動き等を取り入れていきます。

身体能力の高さが主に必要とされるように思われますが、もちろんダンスなので音楽や表情、見せ方など様々な表現力やセンス、キャラクター、そして新しいものを作り出す創造力など様々なことが問われます。

ブレイキン急成長の背景と今後

現在、このカルチャーは世界へと広がっていき、今では世界大会が色々な国で行われ、若者の間で大流行しています。

そして2018年のブエノスアイレスユースオリンピック（BAYOG）にダンススポーツ競技種目として正式採用されたことにより、カルチャーとして育ってきた文化が「スポーツ」として認可を受け、今後より多くの人に見て頂けるチャンスが広がりさらに進化していくでしょう。

BREAKINGの急成長の背景には、「ソロとしての精神力や創造力」「チーム活動を通して得られるコミュニケーション力や団体ならではの創造力」「子供から大人まで様々な世代が大会に参加するので異世代コミュニケーションがはかれる」「国際大会などを通じての国際交流」など1つのダンスを通じてたくさんのことを学べることへの世間からの関心をも高まっています。

世界ユースブレイキン選手権（ユースオリンピック最終予選）の選考方法及び採点方法について

（ルール＆ジャッジシステム委員会STORMとAND8、編集：石川勝之）

アメリカ大陸、ヨーロッパ/アフリカ大陸、アジア/オセアニア大陸の各大陸予選において使用されたルールを、世界ユース選手権でも採用いたします。

～競技方法～

フェーズ1 予選ラウンド、**フェーズ2** グループリーグ、**フェーズ3** TOP4による決勝トーナメント、の流れで行います。

フェーズ1 予選ラウンド（男子59名、女子30名の参加）

世界各国から参加している男子、女子を男子12人×5グループ、女子10人×3グループに分かれ、1人1ムーブ（1回踊る）で行います。この1ムーブから一人一人ポイントがつけられ順位（ランキング）が決まります。そこから上位32名の男子、女子16名を選出し、その予選ラウンドの得点に基づいてグループ分けされ、フェーズ2のグループリーグに進みます。

フェーズ2 グループリーグ

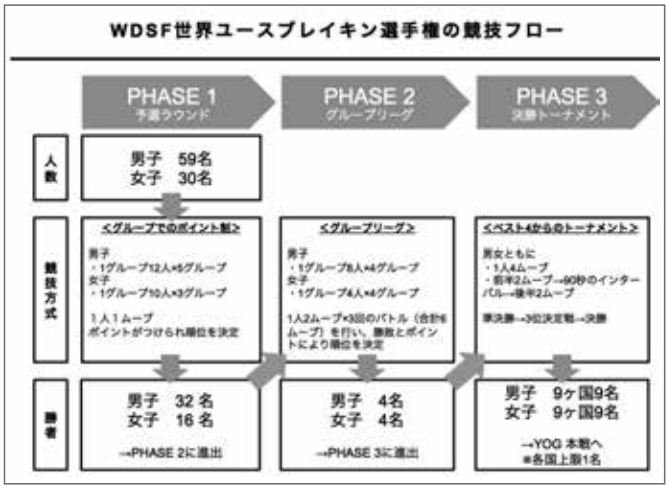
男子は1グループ8人の4グループ、女子は1グループ4人の4グループでBATTLEを行います。そのグループ内で3人の競技者と3回のBATTLEを行い、各BATTLEは2ムーブずつで行うので合計6ムーブのBATTLEを行います。その6ムーブから5人の審査員からの投票数と勝ち取ったラウンド数の合計で上位4位までを選出し、フェーズ3の決勝トーナメントに続きます。

フェーズ3 決勝トーナメント

決勝トーナメントはTOP4のトーナメントから始まります。対戦は、2位通過者vs3位通過者、1位通過者vs4位通過者で行い、3位決定戦まで行います。

トーナメントの各BATTLEは合計4ムーブ制となり、前半の2ムーブが終わった後に90秒のインターバルを入れ、後半にさらに2ムーブを行います。ラウンド後にタイブレイク（同点）があれば、延長戦を行います。

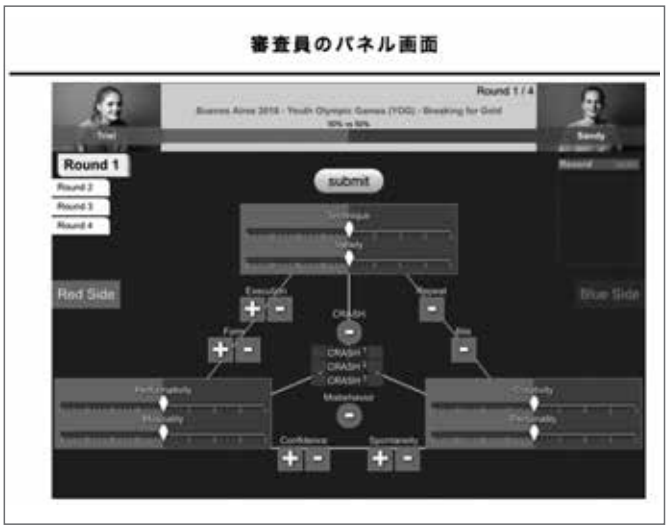
このように各フェーズを勝ち上がっていき、最終的には男女共に9ヶ国9名ずつがアルゼンチンのユースオリンピック本戦に、この大会から出場いたします。



～採点ルール～

6つの基準を示した「トリヴィウム」（TRIVIUM）という方式を使用し、5人の審査員によって決まります。

その採点基準は6つのカテゴリーから成り立っています。



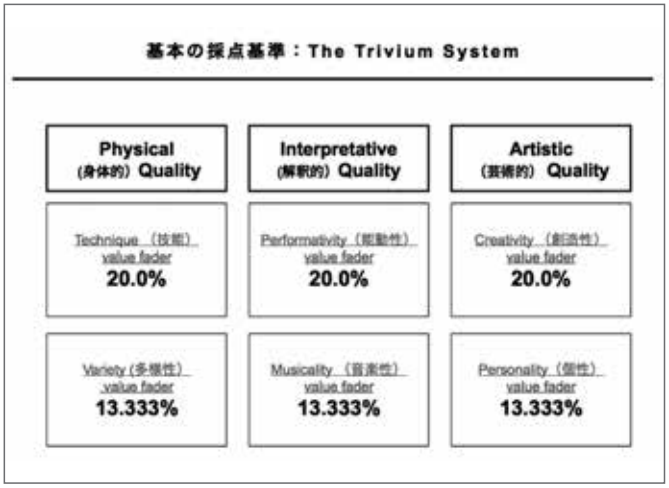
トリヴィウム（TRIVIUM）システムの審査員のパネル画面

6つの基本カテゴリーとは、

・テクニック（技能）とバラエティー（多様性）⇒「フィジカルクアリティー（身体）」に分けられます。

・パフォーマティビティー（能動性）とミュージカリティー（音楽性）⇒「インタープリタティブクアリティー（解釈）」に分けられます。

・クリエティビティー（創造性）とパーソナリティー（個性）⇒「アーティスティッククアリティー（芸術）」の、大きくわけての3つの基本カテゴリーがあり、各カテゴリーはさらに二つに分割されています。



各カテゴリーにはフェーダーを採用しており、審査員はそのフェーダーを使いその演技の1ラウンドづつを%に表して比較し、勝者を決めていきます。

その全てのフェーダーは全て合計すると100%（正確には各

基本カテゴリーは33.333%）の価値を持っており審査員は、バトルの各ラウンド中や直後にその演技をフェーダーを使って評価します。

さらには、この6つの基準に接続されたカテゴリーもあります。

このカテゴリーは、審査員がバトルの重要な瞬間にすぐに対応できるようになっており、ボタンシステムとなっております。
例1（減点のみのボタン）
競技者がクラッシュ（ミス）をした場合、パフォーマンスのあらゆる側面においてマイナスの影響を受けます。クラッシュを押すことにより全てのフェーダーがマイナスに動きます。クラッシュの中にもランクがあり、スリップ（滑ったり、分かり易いミスをしたが演技は続行できる）をするとマイナス2.5%、フォルト（演技が止まるなど）をしてしまうとマイナス5%です。そしてワイプアウト（演技が完璧止まり、次にいけない）は失格です。
例2（加点、減点のあるボタン）
競技者がパフォーマンス中に自発性（Spontaneity）を示した場合、自発的な瞬間を反映するように設計されたボタン（Spontaneity）を素早く押すことができ、それを押すとPerformativityとCreativityにプラスマイナス2%動きます。

減点基準
・Crash（崩れること）のようにマイナスに働く減点のみのカテゴリーは、全ての基準フェーダーにつながります。
他にも、
・Repeat（同じ様な動きを何度もやる）は、Variety、Creativityにマイナス1.66%につながります。
・Bite（人の特定の動きを真似してやること）は、Variety、Creativity、Personalityにマイナス2.34%につながります。
・Misbehavior（不適切な所作や行為）は、Performativity、Creativety、Personalityにマイナスに働きます。これにもクラッシュと同様にランクがあり、例えば「MILD＝相手と非意図的に接触、マイナス2.66%」「MODERATE＝意図的に相手に接触、マイナス5.34%」、「深刻な、意図的に相手の行動範囲を妨害する、マイナス8%」が基本基準ですが、審査員の判断で失格となる場合もあります。これを「SEVERE（シビア）」と表しています。

そして加点と減点のある基準（カテゴリー）は、
・Execution（実行、やりきれてるか）
　⇒Performativity,Techniqueに±2%
・Form（BBOYとしての形、クリアか）
　⇒Technique,Performativityに±2%
・Confidence（自信、積極的）
　⇒Personality,Performativityに±1.66%
・Spontaneity（自発性、瞬時反応）
　⇒Creativity,Performativityに±2%

これらの加点、減点の詳しい採点基準をまとめたのが下記の表です!!

詳細の採点基準

加点+減点基準

基準	影響するTrivium項目	影響%
Execution	Technique Performativity	±2.00%
Form	Technique Performativity	±2.00%
Confidence	Performativity Personality	±1.66%
Spontaneity	Performativity Creativity	±2.00%

減点基準

基準	影響するTrivium項目	影響%
Crash	ALL	Slip -2.50% Fault -5.00% Wipe-out 失格
Repeat	Variety Creativity	-1.66%
Bite（噛む）	Variety Creativity Personality	-2.34%
Misbehavior（不適切な所作）	Performativity Creativity Personality	Mild -2.66% Moderate -5.34% Severe -8.00%

これをトリヴィウムシステムと称しています。

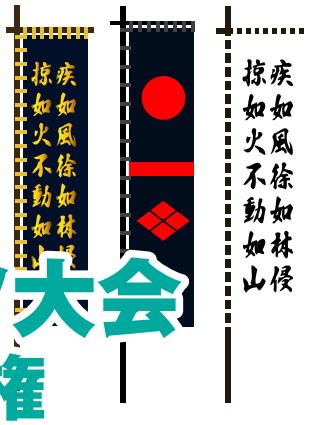
最後に、
Submitボタンを全ての審査員がプッシュすると、その結果は背後のスクリーンに反映されます。これにより全てのデータが確保され、大会の直後に統計情報を分析することができます。

影響するトリヴィウム（TRIVIUM）項目の説明
・Technique
運動能力、熟練度、バランス力、柔軟性、迫力のある動き、空間コントロールなど主に技能。
・Variety
体が動く範囲やどう使いどう動くのか、バリエーションの幅広さや多様性。
・Performativity
音に合ったストーリー、驚きの要素、感情的関与など、真正性。
・Musicality
一貫性、アクセント、音の切り分け、質感、表現力など、音楽性。
・Personality
ステージプレゼンス、キャラクター、感情表現、カリスマ性など、その人らしい個性。
・Creativity
BBOYとしての基本、基礎（文化的、哲学的なもの）を含め基本からどのように進化させているのか？ どのように動きを組み立てているのかなど、新しい動きや基本的な動きへのアイデアや創造性。

山梨県
知事杯争奪

武田信虎が城下町の建設に着手、その後武田信玄に受け継げられ2019年（平成31年）1月1日、開府500年を迎える甲府市は、300日前カウントダウンイベントで賑わい、山梨県大会は大いに盛り上がりました。

カウントダウン



第33回山梨県ダンススポーツ大会
関東甲信越ブロック・シニアⅢ選手権

左から山崎幸明前山梨県DS連盟会長、保坂武甲斐市市長、内藤速山梨県DS連盟会長

選手宣誓　野木秀樹・望月まさ美組（山梨県）

子どもダンスうんどう

平成30年3月4日（日）、第33回山梨県ダンススポーツ大会が小瀬スポーツ公園体育館で開催されました。保坂武大会顧問（甲斐市市長）ご自身もダンスを楽しんで踊られる、市長の温かいユーモアのあるご祝辞があり、内藤速山梨県DS連盟会長始め役員皆様が“選手ファースト”で大会を運営。お隣の長野県や群馬県、千葉県、埼玉県、神奈川県、東京都などから選手がエントリーし、熱戦が繰り広げられました。

山梨県知事杯争奪Ａ級ラテンは、注目の山梨県のホープ小澤玲音・矢崎響組が見事優勝、又Ｂ級スタンダードも優勝と躍進です。メレンゲ・サルサ、プレジュブナイルのラテン、スタンダード、プレジュニアのラテン、スタンダードと、ジュニア選手の笑顔の演技、踊る事の楽しさを体いっぱい表現して、結果発表では更に嬉しい笑顔、少しがっかりした表情など、微笑ましい光景があり、ジュニア選手が沢山出場、今後の活躍が楽しみです。

山梨県知事杯争奪Ａ級スタンダードは小高修平・井上魅空組（東京都）が優勝。ちなみに１位から５位までは東京都所属の選手でしたが、６位に山梨県のホープ小澤玲音・矢崎響組が入りました。

また、関東甲信越ブロック・シニアⅢＡ級選手権スタンダードの部では、ワールドワイドに活躍する“シニアの星”今井正幸・今井由香組（東京都）が実力を発揮し優勝、シニアⅢラテンは地元山梨県の菊池隆・小林小波組が優勝し、副賞にはそれぞれ信玄餅が贈られました。

山梨県知事杯

A級戦La優勝
小澤玲音・矢崎響組（山梨県）
（B級St優勝）

A級戦La表彰式

A級戦St表彰式

A級戦St優勝
小高修平・井上魅空組（東京都）

関東甲信越ブロック・シニアⅢ選手権

シニアⅢA級St優勝
今井正幸・今井由香組（東京都）

シニアⅢA級St表彰式

シニアⅢA級La表彰式

シニアⅢA級La優勝
菊池隆・小林小波組（山梨県）

シニアⅡA級戦St優勝
伊藤竜太郎・伊藤和香子組（東京都）

シニアⅡA級戦St表彰式

シニアⅡA級戦La優勝
橋本和三・楫宏子組（神奈川県）

シニアⅡA級戦La表彰式

B級St優勝
小澤玲音・矢崎響組（山梨県）

B級St表彰式

B級La優勝
名取盛人・遠藤米子組（山梨県）

B級La表彰式

C級St優勝
天野晃一・里吉美里組（山梨県）

C級St表彰式

C級La優勝
望月勇次・青木悦子組（静岡県）

C級La表彰式

プレジュニアSt優勝
堀井香菜子・野崎汐里組（山梨県）

プレジュニアSt表彰式

プレジュニアLa優勝
堀井香菜子・高山禮組（山梨県）

プレジュニアLa表彰式

プレジュブナイルSt優勝
吉岡栄太・堀井日菜子組（山梨県）
プレジュブナイル
（メレンゲ・サルサ総合戦優勝）

プレジュブナイルSt表彰式

プレジュブナイルLa優勝
野崎汐里・高山禮組（山梨県）

プレジュブナイルLa表彰式

ダンスの鉄人

山梨県の最高年齢選手 石川左衛門　80歳

D級スタンダードに出場8位を勝ち取りました。

「ダンスを始めて30年ですが、競技にチャレンジして20年経ちました。健康に良いと思い、のんびり、ゆったり、飽きずに踊っています。継続は力なりです。優しくも頼もしいパートナーの秋山文恵さんとは組んで3年目です。これからもまだまだ、元気な限り踊って行きます」

第70回記念早慶ダンスフェスティバル

2017年12月23日（祝・土）／エビススバルビル「EBiS303」

学生ダンスの元祖、アマチュアダンスの先駆として、今に語り継がれる1948年（昭和23年）の第１回早慶戦。爾来、早慶は学生ダンスを牽引し伝統を築いてきた早慶ダンスフェスティバルが第70回を迎えました。この第70回記念大会は80年、90年そして100年を見据える華やかな大会となりました。

かつて、学連５原則の一つに学生服着用がありましたが、早慶戦は現役学生も燕尾服をスマートに着用し競技に臨んでいました。学生服着用については、キャット学ラン（学生服をラテン向けに変形）が流行りでしたが、全東北学連副会長を務める慶應大学OBの神宮周二氏（昭和45年卒）が提唱し、当時の人見康子学連会長（慶應大学顧問）と図り、1987年（昭和63年）ラテンから着用をやめ、他学連にも波及、“学生服着用”は1991年（平成３年）削除され学連５原則は４原則になりました。

第一部は、現役戦、OBOGによるトライアル、現役学生とOBOGが共に戦う伊藤安二杯（スタンダード）、人見康子杯（ラテン）も開催され、昔懐かしいOBの出場もありました。

第２部はダンスパーティです。そして特別グレートOBのデモがありました。細金鉚生慶應大学OB会名誉会長（昭和32年卒）がお元気にデモを披露。早稲田大学樋口伸一氏（昭和32年卒）もデモを予定しておりましたが、挨拶だけに留まりました。

総合優勝　慶應大学

中村慎助大会会長
（慶應大学顧問）

中西剛早稲田大学OB会長（昭和58年卒）と土井全一慶應大学OB会長（昭和51年卒）

OBトライアル

柳堀正道・柳堀一美 組
（昭和51年卒早稲田）

中村英洋・木谷美芳子 組
（昭和51年卒早稲田）

西村哲夫・西村一枝 組
（昭和53年卒慶應）

伊藤安二杯優勝
横山雷人・矢島里咲 組
（早稲田）

人見康子杯優勝
守屋　俊・土屋舞姫 組
（早稲田）

臼井　明・荒木頼子 組
（昭和53年卒慶應）

日本実業団陸上競技連合西川晃一郎会長が慶應大学OBの応援に

西川会長は2015年、マラソンで日本新記録を突破したら1億円の報奨金を支払うと発表。ついに今年2月の「東京マラソン2018」において16年振りに日本記録を更新した設楽悠太選手に、西川会長より１億円の日本記録褒賞目録が贈られ、スポーツ界の話題になりました。西川会長は土井全一慶應大学OB会長が役員を務める会社の社外取締役、神宮周二JDSF広報部顧問とは高校時代の同級生。宮崎多加子JDSF広報部長は神宮周二氏と平成4～18年、21年、22年と早慶ダンスフェスティバルに出場、古瀬精一JDSFアンチドーピング委員長（昭和53年卒）は40年ぶりのOB戦トライアルに出場、スポーツ界の情報交換会メンバーです。

左から宮崎、神宮、土井夫妻、西川会長、古瀬夫妻

和歌山県ダンススポーツ連盟の山名風香さんが海南市スポーツ奨励賞を受賞！

右から
岩橋寛亮前和歌山
DS連盟会長と
山名風香さんと筆者

和歌山県の海南市ダンススポーツ連盟は、NPO法人総合型地域スポーツクラブ「ゆうゆうスポーツクラブ海南」でもダンスうんどう講座を開講し、長年ジュニアの育成にも取り組んで参りました。この度、和歌山県DS連盟ジュニアの山野風香さんが、平成29年度海南市体育協会スポーツ賞・選考委員会において奨励賞の受賞が決定し、３月４日第13回海南市スポーツ賞表彰式において、神出政巳（じんで・まさみ）海南市市長（海南市体育事業実行委員会会長）よりスポーツ賞の奨励賞が授与されました。ジュニアのダンス部門では初めてのことです。

海南市体協内でも和歌山県DS連盟の取り組みについて大変称賛を頂いています。今回の授与につきましては、第37回和歌山県ダンススポーツ選手権大会ジュブナイル・ラテン部門で優勝したのが大きな受賞理由と思います。これを機にジュニアの会員拡大、また一般会員拡大にさらにつなげればと思います。（和歌山県ダンススポーツ連盟普及・指導部　土井聿代）

ジュニアを
指導する筆者

わかやま

ジュニア選手２組が初出場

「相手思いやる心を育む」

全国ダンススポーツ選手権大会

ジュニアの活動を取り上げた
平成25年5月11日付けの毎日新聞

大好評! NEW プラクティスウエア

ストレッチデニム
ボールルームパンツ

※フロントとバックは折り目が消えない
センターシーム仕様

No.TD6001
価　格 ￥17,800+税
カラー:ブラック&
ネイビー
サイズ:73･76･79･
82･85(㎝)

スリムニットストレッチシャツ

※ご家庭の洗濯機で丸洗い後
ノーアイロンで着用できます

No.TT5075
価　格 ￥9,900+税
カラー:白･黒･グレー･ワイン･紺
サイズ:S(37-78)･M(39-82)･
L(41-84)･LL(43-86)

東京・秋葉原
エンビのトリキン
東京トリキン(株)
TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033
http://www.torikin21.com
〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1　営業時間／月～金 10:00～18:30　土日祝 10:00～17:30　定休日:毎週水曜日

山形県ダンススポーツ連盟創立30周年記念式典

2018年2月18日(日)／ヒルズサンピア山形

山形県ダンススポーツ連盟創立30周年記念式典が盛大に開催されました。第一部は祝賀記念のダンスパーティ。屋外は50cmから所によっては１mの積雪。石油ストーブが４箇所に設置された体育館。元気の良い県DS連盟会員など関係者約250名が体育館に集い、寒さを吹き飛ばすパーティとなりました。スペシャルゲストは全日本10ダンスチャンピオン、八谷和樹・皆川円組。スタンダード・ラテンいずれも素晴らしいデモで会場は更にヒートアップ。抽選でゲストと踊れるラッキータイムもありました。

第一部ダンスパーティ パーティ風景

また、第二部は会場を移し約50名が参加、温かい家族的な雰囲気の中、記念式典が行なわれました。

スペシャルデモ

佐々木啓東北ダンススポーツ連絡会会長（宮城県DS連盟会長）の乾杯

夢のようです。
幸せです。
ありがとう
ございます

◀ゲスト八谷和樹さんとラッキーダンスを踊った細谷真理子さん

ご来賓の公益財団法人山形市体育協会荒井満会長(前列中央)

祝辞　長谷川守夫JDSF東北ブロック委員長（福島県ダンススポーツ連盟会長）

ここに記念すべき創立30周年を迎えられましたことは、誠に喜ばしい限りであり、心からお慶び申し上げます。また、平井夏会長をはじめ歴代会長・役員並びに会員の皆様には、地域に根差したダンススポーツ普及拡大のために各種イベントを実施され、地域社会との絆を形成されるなど、多大な貢献をいただいているところであり、そのご努力とご苦労に対し深く敬意を表します。

感謝の辞（平井夏・平井剛秋ご夫妻）

八谷和樹・皆川円組と平井ご夫妻

５年前の2013年（平成25年）、古瀬精一前会長から引継、平井夏会長・平井剛秋事務局長が誕生。平井夏会長は全国でも最も若い女性の県DS連盟会長となりました。

30周年記念事業に際し、上部団体であるJDSF本部、日ごろ大変お世話になっている東北ブロック各県DS連盟には、多大なるご協力を賜り心より御礼申し上げます。

前山形県連盟古瀬精一会長は頭脳明晰、判断力も的確、さらに周囲をぐいぐいと引っ張っていき「古瀬さんが言うなら間違いない」と思わせる強いリーダーシップのある方でした。そんな彼が会長の間にしてきた功績は数えきれません。JADA社会人連盟と選手会LACDの組織統合！これが今の県連のすべての始まりになっています。続いて財政の立て直し。空に近い状態から様々な事業の展開に困らない土台をしっかり作り上げて下さいました。今回の30周年事業が行えたのも、この下地があったからこそです。そして県連がすべてを取り仕切るのではなく、各地域に根差した活動を活発に行えるよう、支部体制を整えられました。このおかげで会員減少傾向が顕著な昨今、山形県では昨年より会員が増加しております。会長職を交代した若輩の私達でも、なんとか立ち回っていけるのは、道筋をつけて下さったおかげだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

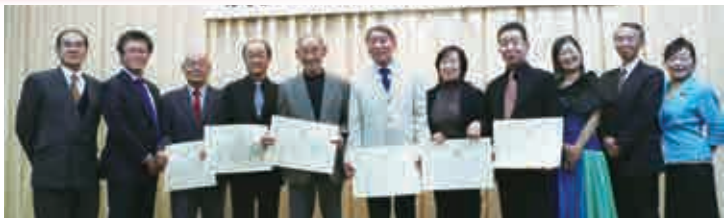
思い出（特別功労者表彰授与）

前山形県ダンススポーツ連盟会長　古瀬精一
（JDSF本部アンチ・ドーピング委員長、神奈川県DSC理事）

思い出

特別功労表彰を賜り感激しております。所用により、欠席することをお許しください。私の最初に取り組んだ大仕事は、旧JADA山形と旧LACD山形の組織統合でした。幸い、LACD山形の中條一之会長とは、ダンスを愛する仲間の意気が通じ、無事に成し遂げることができました。山形県DS連盟の屋台骨の誕生の瞬間でした。思い出に残ることは、2002年ダンススポーツグランプリを山形市で開催したことです。前日猛暑の準備の中、山形市総合スポーツセンターで養生マットを敷きました。固定する養生テープには、手伝っていただいたスタッフの皆様のこぼれた汗が光っていました。この汗の輝きは、いつまでも私の心に残っています。山形県DS連盟の10数年は私の宝物です。いつの日か皆様と再会できることを楽しみにしています。ここまで書いてきましたら、思い出があふれ、涙もあふれてきました。皆様のご健勝を祈念し、ここで筆を置きます。（平成30年2月吉日）

30周年記念表彰　受賞者（敬称略）



★特別功労者表彰（県連盟の発展に著しく貢献された方）

古澤　茂堂　　古瀬　精一　　中條　一之

★功労者表彰（県連盟の活動に多大な貢献のあった方）

黒田　敏雄　　酒井原繁雄　　清水　勝美　　村山新太郎
元木運一郎　　後藤　宣子　　佐藤けい子　　藤本三枝子

★支部功労者表彰（県連盟の支部活動において多大な貢献のあった方）

阿部　孝志　　瀧口　洋志　　齋藤　啓一　　武田　孝行　　土田　光
丹野　哲　　戸津　義美　　冨岡　正次　　羽角　健二　　樋口　一美
矢作　幸男　　横倉　良則　　大地　幹　　木村　和恵　　齋藤　頼子
相良　浩子　　柴田　敦子　　白鳥　悦子　　末廣かなえ

尾原道與理さんが岡山県体育功労賞を受賞！！

岡山県ダンススポーツ連盟の尾原道與理名誉会長（86歳）が昨年の12月10日（日）、公益財団法人岡山県体育協会より体育功労賞を授与されました。尾原さんは岡山県DS連盟設立に尽力し、以後14年間の長きにわたり会長として運営にあたり、ダンススポーツの発展と普及振興に務めました。また、生涯スポーツ・競技スポーツとしてのダンススポーツの普及振興のため、社会人・競技選手・学連の組織化、内閣総理大臣賞争奪第13回都道府県対抗全国ダンススポーツ大会 in 岡山を始め多くの競技会の開催・運営にあたり、ダンススポーツのPR、知名度アップ等、環境整備に尽力されました。

尾原道與理・淑子ご夫妻

体育功労賞受賞にあたって（ダンスこと始め）

私がダンスに出会ったのは大学時代の昭和20年代後半であった。日本は戦後の混乱から再建の希望へと歩みつつあった。国民全体は難民のような状況の中にも「美しいもの」「優しいもの」を求めていた。外国の著名な音楽家を招いての演奏会も開かれるようになり、大学祭も盛んになっていた。
中学時代に学校の体育館で聴いた声楽家奥田良三氏の「初恋」（石川啄木）の歌、あれほど情感豊かに歌える人にはいまだに出会わない。ガスパール・カサドのチェロ演奏、大きな体の老人から可憐な乙女のような美しい優しい音が出るのに感動したのも青年期の思い出である。「男女７歳にして席を同じうせず」から男女共学へ。ダンスの流行も価値観の大変革のひとつであった。兵舎を改装した大学図書館でジルバの講習会があるというのを聞きつけて見に行った。窓の外は黒山の人だかりで中の様子はうかがえなかった。

当時、大学ではすでにダンスの同好会ができていて、医学部OBのドクターが指導に来てタイヤを縄で腰にくりつけて引っ張ったりして体幹を鍛えていた。

正式に習い始めたのは、西日本チャンピオンが岡山に教室を開かれ、入門したのが始まりである。当時は外国の技術を本から学ぶしかなく「ブック・ダンス」という呼称があった。友人から「ダンスではなくダンス学だ」となかば敬意と親しみをもってからかわれたりした。

2002年（平成14年）、３年後の岡山国体に備えて岡山県ダンススポーツ連盟設立のオルグがあった。同年５月、岡山県ダンススポーツ連盟設立。JDSFが文部科学省より社団法人として認可された年である。JDSFの定款の「ダンススポーツの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする」の趣旨に賛同し、岡山県DS連盟は芸術性も主張して、定款第３条（目的）に「・・・、もって県民の心身の健全な発達ならびに文化の向上に寄与すると、「文化の向上に寄与する」を加えた。2005年（平成17年）、（財）岡山県体育協会に加盟を果たす。

様々な困難はあったが、皆手弁当で協力し献身的に「ダンススポーツの普及振興」の一翼を担ってきた。これは私たちの大切な遺産である。（2018年2月1日記　岡山県ダンススポーツ連盟名誉会長）

尾原道與理（後列左２人目）

表彰式

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会

TOKYO 2020

ダンス・ダンス・ダンス
第87号(SPRING)
平成30年4月発行

■発行人／山田　淳(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
■編集長／神宮周二(公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部)
■企　画／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
■発行所／公益社団法人日本ダンススポーツ連盟
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階　TEL.03-6457-1850　FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

ⓒ本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。